

一般社団法人 日本生態学会

2025 年度 第 3 回通常理事会

1. 日時：2025 年 12 月 20 日（土）13:00～17:24
2. 場所：キャンパスプラザ京都第 3 会議室およびオンライン（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（19 名・定足数 10 名以上）
（理事）北島薫、日浦勉、内海俊介、半場祐子、山尾僚、久米篤、木村恵、村岡裕由、相場慎一郎、石濱史子、森章、小林真、東樹宏和、工藤岳、土居秀幸、中野伸一、吉田丈人
 - ・監事：黒川紘子、立田晴記
 - ・オブザーバー：富松裕、永光輝義、大澤剛士、関島恒夫
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 17 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い北島薫会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、北島薫会長、黒川紘子監事、立田晴記監事、議事録作成者は内海俊介専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて内海専務理事よりドラマ番組への美術協力、研究助成への推薦など庶務 7 件、ESJ74 関連の支払い等会計 9 件の報告があった。
 - ・2025 年会計状況について学生会員が増加していること、最終的に黒字会計となる見込みとの報告があった。
2. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて永光編集長より 2025 年の編集状況、保全誌と共通の執筆要領を適用するとの報告があった。
3. 保全生態学研究編集委員会報告
 - ・資料 3 に基づいて大澤編集長より 30 巻 1 号・2 号の出版状況、和文誌共通執筆要領の改訂、DOI 発行機関の Japan Link Center からの依頼で大澤編集長が保全誌編集長の立場で講演を行うとの報告があった。

4. Ecological Research 編集委員会報告

- ・資料 4 に基づいて富松編集長より 2025 年出版・編集状況、大会で実施された ER シンポ総説の出版予定について、投稿・査読システムの Research Exchange (REX) への移行状況について報告があった。

5. 出版状況報告

- ・資料 5 に基づいて久米理事より PSB の研究成果公開促進費状況について、BES2025 にて宣伝ブースを出展したこと、種生物学シンポジウムにて海外より講演者を招聘しての PSB シンポを実施したこと、OA 論文状況について報告があった。また、Wiley 社との関連について、ER 編集長交代、各編集長との契約について、データペーパーについて、過去の論文データの保持について報告があった。

6. 大会報告 (ESJ73 準備状況)

- ・資料 6 に基づいて土居大会実行委員長より大会申し状況と準備進捗状況の報告があった。発表数は過去最大で会場も 15 会場のパラレルセッションで実施される。
- ・受賞講演はプレナリーで実施されるため、英語スライドでの発表と同時翻訳体制を準備するとの報告があった。

7. 各種委員会報告

<キャリア支援専門委員会>

- ・資料 7 に基づいて木村理事より「女子中高生夏の学校」にて実習とポスター発表実施、第 23 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加、「誰もが快適にフィールドワークを行うための野外調査マニュアル」の作成を進めているとの報告があった。
- ・ESJ73 京都大会では「キャリア支援相談室」「CPD 受講証明書の発行」の実施見合わせ、託児料金を 1 時間 1,000 円で徴収との報告があった。
- ・ESJ73 と別の時期にフォーラムを実施する。
- ・委員会 HP に「ダイバーシティ推進に関する参考資料集」の掲載準備中との報告があった。

<情報交流支援専門委員会>

- ・資料 7 に基づいて村岡理事より Jeconet 公募情報に関する会員からの意見メールとその後の投稿への対処について、Jeconet 会員ガイドラインの改訂について報告があった。

<自然保護専門委員会>

- ・ 関島自然保護専門委員長より 12 月に日本生態学会九州地区会と自然保護専門委員会により「宇久島北部及び西部の草原・湿地環境の保全を求める要望書」の提出を行い、記者会見には多くのメディアが集まったとの報告があった。

8. 大会運営改革 TF 報告

- ・ 資料 8 に基づいて吉田大会担当理事よりポスター部会とポスター賞の現状と今後について報告があった。ポスター賞審査システムは新システムへ移行予定。
- ・ 大会担当の職員雇用について進捗なし。適切な候補者探しを継続する。

9. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 9 に基づいて内海専務理事より各賞受賞者報告、大島賞選考の課題、自然史研究振興賞の課題が報告された。
- ・ 選考委員会より大島賞選考の課題として「審査負担の増加」「応募者層の縮小」「選考基準の揺らぎ」が挙げられ、大島賞の位置づけや表彰対象明確化に向けて専門タスクフォースを設置して検討することが要望されている。また、宮地賞・鈴木賞についても賞の位置付け見直しの意見があった。
- ・ 自然史研究振興賞についても賞の対象・位置づけについて選考委員会でも議論があり、理事会でも継続して議論することになった。

10. 次々期会長および次期代議員選挙報告

- ・ 資料 10 に基づいて半場庶務担当理事より結果報告があった。
- ・ 前回選挙で指摘のあった投票者名簿並び順を、今回はウェブ投票でランダム表示、PDF 名簿で 50 音の逆順の並び順としたところ問題なく実施され、不満の声も特にないと報告があった。

11. EAFES 東京大会報告

- ・ 資料 11 に基づいて吉田理事より中国・韓国・他海外からの参加者を含めて 457 名の参加があり盛況に実施されたこと、収支が 110 万円ほど黒字となったことが報告された。
- ・ 次回は 2027 年夏頃に中国生態学会のホストにより杭州大会の予定。

12. 生物科学学会連合報告

- ・資料 12 に基づいて日浦副会長より、高校生物重要用語集の作成における解説の編集協力があり用語解説を学会員に依頼していること、生科連にて高校生フォトコンテストを実施しているとの報告があった。

13. Global Ecology Alliance について

- ・資料 13 に基づいて北島会長よりイギリス生態学会の呼びかけで Global Ecology Alliance 立ち上げられ、生態学会にも加入の話が来ているとの報告があった。

14. その他

- ・資料 14 に基づいて北島会長より生態学会パートタイム基準の時給が変更されたこと、業務地域によって時給を考慮しやすいように文言の一部を修正したとの報告があった。
- ・小林理事より生態学会 HP 改訂について掲載項目を整理しこれから委託業者を選定していくとの報告があった。

審議事項

第 1 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・北島会長より日本生態学会賞候補者について説明があり、占部城太郎氏を理事会推薦候補とすることが全会一致で承認された。

第 2 号議案 委員の承認について

- ・資料 2 に基づいて永光生態誌編集長より 2026 年 1 月からの新編集委員候補者提案があり、全会一致で承認された。
- ・資料 4 に基づいて富松 ER 編集長より 2026 年 1 月からの新編集委員候補者提案があり、全会一致で承認された。

第 3 号議案 大会について

- ・資料 6 に基づいて土居大会実行委員長より、生態学会として京都府立植物園に ESJ73 公開講演会の後援依頼をすることが提案され、全会一致で承認された。
- ・資料 8 に基づいて吉田大会担当理事より大会ポスター賞について新システム移行準備の前提として今後もポスター賞審査を継続することが提案され、全会一致で承認された。
- ・

第 4 号議案 国頭村で逸走したシカの対応に関する要望書について

- ・資料 15 に基づいて関島自然保護専門委員長より「国頭村で逸走したシカの対

応に関する要望書」を沖縄生物学会長、日本哺乳類学会理事長、日本生態学会自然保護専門委員長名での提出について説明があり、一部修正の上で提出することが全会一致で承認された。

その他

- ・ 日本生態学会誌の年1号化については次回以降に検討する。
- ・ 地区会活動費の増額について希望がある場合は地区会より事務局（執行部）に申請することが確認された。

閉会：以上の議事を終え、17時24分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2025年12月20日

会 長 : 北島 薫 ⑩

監 事 : 黒川 紘子 ⑩

立田 晴記 ⑩